

## アクティブラーニングを取り入れた授業報告

《教科》 国語  
《担当者》 藤原 ちひろ  
《実施日》 2015年10月7日(水) 3, 4限  
《実施科目》 小論文(選択授業)  
《実施教室》 図書室  
《内容》

小論文は毎回テキストのテーマに合わせて小論文を書く授業である。本時の目標は、次に入るテーマの『法律と経済』について、興味のある話題を自分で選び、それについて調べて知識を広げることである。

授業前半の3限は、どんな話題について調べるか、いろいろな話題を出して選び、3～4人のグループを作った。そしてグループごとにインターネットや新聞、図書室にある図書を使って調べさせた。後半の4限はグループごとにまとめた内容を発表させ、課題や問題について述べさせた。聞いている生徒にはそのメモを取らせ、授業の振り返りもさせた。

よかった点

- ・聞いたことはある話題も調べることで内容を理解できるようになったと振り返りのシートで述べる生徒がほとんどであった。
- ・一人で向き合う小論文であるが、書き始める前にグループで調べた内容を話し合うことで他人の意見を参考にでき、よかったと述べる生徒も多数いた。
- ・新聞やインターネットで最新の情報を得るおもしろさに気づけた。

よくなかった点

- ・少ない人数に設定したが、役割が均等にグループ内で分けられていない班もあり、積極的に参加しない生徒もいた。



## アクティブラーニングを取り入れた授業報告

- 【教科】 地歴・公民  
【担当者】 大村 一人  
【実施日】 2015年10月22日(木) 2限  
【実施科目】 2年 地理A(2年2組選択者)  
【実施教室】 309教室  
【内容】 地理の「気候」におけるひとつのまとめとして実施。

「乾燥気候」の特徴について考えてもらうために、グループワークのコンセンサス実習の「砂漠で遭難」を実施。砂漠の過酷な状況をシミュレーションしてもらうことを通して、授業で習ったことの復習としておこなった。

- よかった点
- ・単なる暗記ものとして「気候」については考えられがちである。定期考査が終わったらそれでおしまい、翌日になったら覚えたことはほとんど忘れてしまう傾向にあるので、是非とも印象づけたいと考えていた。このワークをすることによって、乾燥気候についての印象を与えることができたと思う。生徒たちのまとめ(ふりかえり)では、寒暖の差などが具体的に考えることができたとの意見が多かった。
  - ・寝ている生徒はいなくて、積極的に意見の交換をしていた。なかなかまとまらないグループにはアドバイスを与えた。

- よくなかった点
- ・ゲーム的傾向があるので、ひとつ間違えれば単なるゲームとなる。「気候」について考えさせるのが目的なので、担当者のファシリテーションの匙加減が難しいところである。今回はゲーム傾向が強くなってしまった。まとめの時間が足らなくなったことがミスの原因と考える。時間配分のミスである。



## アクティブラーニングを取り入れた授業報告

- 【 教 科 】 数学  
【 担 当 者 】 塩崎 靖子  
【 実 施 日 】 2015年6月15日(水) 4限  
【 実 施 科 目 】 1年 数学A(1年56組 基礎クラス)  
【 実 施 教 室 】 1年5組  
【 内 容 】

数学Aの「組合せ」を扱う授業である。本時の目標は、問題文を読み取って、組合せの式「 $nCr$ 」のを利用して立式することである。

授業前半は、授業者による板書を利用しての一斉授業、後半25分は、問題演習を行った。問題演習に際して、グループ学習を利用した。

25分のうち、5分を自分で考える時間、15分を4~5人のグループで解き方をお互いに共有する時間、その時間内に各グループに問題を指名し、グループの代表が板書した。残り5分は、もう一度、前を向く形をとって、授業者による解説を行った。

時間コントロールのため、タイマーを利用している。

- よかった点
- ・生徒たちは、グループ内で疑問を解消することで、自分で理解できたという自信を深めた。
  - ・授業者は、机間巡回を余裕をもって行えた。生徒たちのわからないポイントをつかむことができた。

- よくなかった点
- ・時間配分が難しい。生徒の発表まで時間を確保できなかった。



## アクティブラーニングを取り入れた授業報告

- 【 教 科 】 数学  
【 担 当 者 】 塩崎 靖子  
【 実 施 日 】 2015年10月19日（月） 6限  
【 実 施 科 目 】 1年 数学I（1年56組 標準クラス）  
【 実 施 教 室 】 1年6組  
【 内 容 】

数学Iの「2次関数のグラフと2次方程式」を扱う授業である。本時の目標は、生徒自ら応用問題の解法の考え方を導くことである。そのためにジグソー法を取り入れ、3種類の専門家になり、その知識・技能を利用して与えられた応用問題をグループで解くという手法での活動を行った。

授業前半は、今までに習得した知識・技能を3つのエキスパートに分かれて、確認するグループ活動、後半は、グループ替えを行い、3種類の専門知識を持ち寄って意見を出し合いながらグループ学習を行った。

後半のグループ活動では、活発な意見交換が行われ、7グループ中4グループが解答を導いた。残りのグループも惜しいところまで進んでいた。次回の授業で、生徒の解答のうち2作品を全員に紹介した。

- よかった点
- ・ 専門家（エキスパート）になったことで、後半のグループ活動では、発言せざるを得なくなり、いつも発言しない生徒も発言していた。
  - ・ 自信のない生徒が、前半のエキスパート活動で必要な知識を持っているので、後半のグループ活動で活躍できた。

- よくなかった点
- ・ エキスパートを分類する上で、今回は、Aのエキスパートの比重が多くなってしまった。



## アクティブラーニングを取り入れた授業報告

- 【教科】 理科 化学  
【担当者】 辻川 勲史  
【実施日】 2015年9月30日(水) 2限  
【実施科目】 3年 化学基礎演習  
【実施教室】 208教室  
【内容】

化学基礎の「物質量と化学反応式」を扱う授業である。本時の目標は、生徒が問題の解答解説を黒板を使って体験してみることである。問題を解き、発表内容を考える時間をこの授業の前回に設定している。

授業は前半と後半に分け、各25分間で6問を6班が解答解説していく。板書準備10分・解説の発表が2分×6で設定した。

また、他の班の発表を聞きやすさ5点・分かりやすさ5点の計10点満点で相互評価させた。

- よかった点
- ・グループ内で疑問を話しあう姿が見られた。
  - ・発表内容を班で考えて工夫する姿が見られた。
  - ・授業者は、机間巡回を余裕をもって行えた。生徒たちのわからないポイントをつかむことができた。
  - ・相互評価の点数が平常点になると伝えていたので、生徒は真剣に発表を聞いていた。

- よくなかった点
- ・よほど簡単な問題以外、生徒たちの発表は分かりにくい。聞いていて納得しにくいものが多かった。
  - ・次の授業に扱う問題をスケジュール化して予習を促したが、取り組んでこない生徒が多かった。
  - ・1人1人の理解度が分からなかった。理解度の確認のために積極的に小テストを行ってもよかった。



## アクティブラーニングを取り入れた授業報告

- 【 教 科 】 体育  
【 担 当 者 】 飯尾 勝紀  
【 実 施 日 】 2015年11月12日（木） 3限  
【 実施科目 】 2年 体育（12組 ソフトボール選択者）  
【実施教室等】 グランド  
【 内 容 】

本校3年次の必修体育では、自分が選択したスポーツを自分たちで計画を立て、授業をすすめる取り組みをしている。具体的には、授業前日までにその日の当番が、授業計画をファイルで提出し、計画通り班員と協力して取り組む。授業終了の10分前に運動をやめ、班でその日の振り返りを話し合い、ファイルに記入、次回の練習計画や目標を話し合い、授業を終える。

今回は、3年次の体育がスムーズにすすめられるよう、自分たちで準備・片づけを行い、グループで協力して、準備体操・補強運動・試合が運営できるように取り組んだ。また、試合の記録もリーダーを中心に記入させた。

- よかった点
- ・ やらされる授業ではなく、主体的に取り組んでいるため、生徒たちは楽しそうに活動していた。
  - ・ 生徒がアドバイスするので、アドバイスされた側も気持ちよく受け入れているようであった。
  - ・ 授業者が授業の途中で指示する必要がないので、生徒の活動をしっかり見ることができ、実技評価をつけることができた。
- よくなかった点
- ・ 試合の時間は短くなるが、その日の活動の振り返りを行える時間を確保するとよりよかったと考える。



## アクティブラーニングを取り入れた授業報告

- 【教科】 英語  
【担当者】 ロナルド・サントス 辻 真人  
【実施日】 10月21日（水）3時間目  
【実施科目】 3年生 オーラルコミュニケーション  
【実施教室】 208教室  
【内容】

Chapter 9 “Bigger and Better” を扱う授業である。本時の目標は、表題の通り比較級を使って、色々なものを比較して、それを英語で表現する力をつけることである。基本的なこと、例えば、形容詞の比較を確認および学習し、反復練習を繰り返す。その後、教科書にある Conversation Practice をグループでメモリーチャレンジさせ、全員にプレゼンテーションさせる。ここまではベースを作る段階である。

次に、前半で学習した比較の基本およびメモリーチャレンジでインプットされた EXPRESSION を生かし、Picture を使って、それぞれのグループが気が付いたことをプリントにいくつか英文を作成させる。各グループの代表が、その内の一つを黒板に板書する。そして、各グループが書いた比較の英文を全員で確認し、全員で発声する。

最後の5分は、学習した比較のワードを使って、ハンギングマンクイズを行う。各グループで競争させ、モチベーションを高めさせ、さらに強い印象を残させる。

○良かった点 ほぼ全員が、モチベーションが高い状態で学習でき、インプットとアウトプットができた。

○良くなかった点 英語の基本が出来ていない生徒には、しんどかった。

